

## 3. 国際共同研究

【採択時公表】

## 3- (1) 全体概要

本欄には、本事業を実施することにより、到達目標へどのように繋げていくのかを、2. に記載した実施体制等を含めて、全体的な概念を図等を使って分かりやすく示した上で、以下に続く3- (2) 研究目的及び到達目標、3- (3) 研究計画・方法の各項目について全体的な概要を簡潔にまとめて記述してください。(図と記述で1頁以内)  
 なお、本欄(3- (1))は採択された場合、採択後本会HP等で公表される予定です。

## 【研究目的及び到達目標】

本事業は、地域研究のための研究環境が卓越しており、従来から京都大学のアフリカ地域研究資料センター(以下、アフリカセンター)と大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻(以下、ASAFAS アフリカ専攻)が学术交流を行ってきた海外の連携機関との双方向的な学术交流をさらに推進し、グローバル化が著しい現代世界において「アフリカ地域」を理解していくための研究パラダイムを再編する。この目的を受けて、連携機関がこれまで蓄積してきた教育研究の成果やこれから目指している取り組みを以下の3つの観点から整理・分析し、これと本研究科が推進してきた地域研究との融合をはかる(図1):①地域が空間的・時間的にどのように組織化されていると考えているか、②地域のローカルな知をどのように活用しようとしているか、③これからどのような地域をデザインしようとしているか。これらを達成するため、ケルン大学、ドイツ霊長類センター、エジンバラ大学、国立科学研究センター、アジス・アベバ大学、ヤウンデ第1大学、ケープタウン大学、アンタナナリヴ大学という8つの連携機関との協業関係を強化し、若手研究者をこれらの機関に派遣して国際共著論文の執筆などを目的とした共同研究を行わせる。



図1 概念図

## 【研究計画・方法】

アフリカセンターとASAFASは、京都大学の国際戦略に沿って若手研究者の育成をはかる多くの教育研究プログラムを実施し、それらを通じて、国際的な学术交流に関わる人材、ネットワーク、ノウハウを蓄積してきた。本プロジェクトは、こうした教育研究活動の一環として構想された。アフリカセンターとASAFAS アフリカ専攻は本プロジェクトで連携する計8つの海外の連携機関とすでに研究上の深い交流があるが、平成27年度はこのすべての連携機関に担当研究者を派遣し、若手研究者を受け入れる体制の最終チェックと細部に関わる折衝・調整を行う。そして、ドイツ霊長類センター、アンタナナリヴ大学、エジンバラ大学に若手研究者を派遣する。これらの若手研究者が国際共著論文の執筆を目的としたワークショップ等を行うことで、アフリカセンターおよびASAFASと連携機関との間の組織的な共同研究を推進する。またケルン大学、ドイツ霊長類センター、ケープタウン大学、アンタナナリヴ大学からは、連携研究者を京都大学に招へいして、招へい研究者を受け入れる体制に関わる折衝・調整を行う。

平成28～29年度は、前年度から派遣を開始した若手研究者を引き続きドイツ霊長類センター、アンタナナリヴ大学、エジンバラ大学、アジス・アベバ大学に派遣する。これに加えて、平成27年度後半に選考した計3名の若手研究者を、平成28～29年度にそれぞれ国立科学研究センターおよびヤウンデ第1大学、ケルン大学およびケープタウン大学、エジンバラ大学およびヤウンデ第1大学に派遣する。海外の連携機関からは、平成28年度に2名、平成29年度に2名の研究者をそれぞれ4ヶ月ずつ招へいする予定である。平成29年度には、日本(京都)で国際シンポジウムを開き、本事業の結果を世に問う。国際会議は二日間を予定し、本事業で派遣された若手研究者がそのオーガナイズの中心的役割を果たす。

本プロジェクトは、上記のような活動によってアフリカ地域研究に関する教育研究ネットワークの構築を推進する。これを通じて、我が国、アフリカ、欧米の学術界の包括的なアカデミック・パートナーシップ体制を確立する。さらに、グローバル状況下におけるアフリカや日本を始めとした現代社会の持続的な発展に資する実践的研究を目指す。

※本ページは増やせません。

(平成27年度公募)